

世界遺産西本願寺に参拝旅行

浄泉寺通信

第11号
 年4回発行
 浄土真宗本願寺派
 吉見布教所浄泉寺
 埼玉県比企郡吉見町
 久保田40-1
 発行責任者 福井学誠

コーラス大会に参加

ユネスコの世
 界文化遺産に登
 録されている京
 都・西本願寺を
 訪ねる「浄泉寺
 秋の一泊旅行」
 へ昨年11月、行っ
 て参りました。
 今回の旅の主な
 目的は、大きく
 分けて三つあり
 ました。



まず一つめの
 目的は西本願寺
 で開催される
 「御堂演奏会」
 への参加、二つ
 めはこの一年間
 に大谷本廟へ納
 骨された方の追
 悼参拝、そして
 三つめは法名を
 いただく帰敬式

の受式です。今回の旅行
 に参加された7名の方の
 なかで、これらの目的す
 べて当てはまる方もいらっ
 しゃいますが、1つしか
 いないことです。

旅の第一の目的だった
 御堂演奏会とは、西本願
 寺の阿弥陀堂で春と秋の
 年2回開催される、仏教
 讃歌コーラスの大きな集
 会のことです。11月22、
 23日の2日間に今
 年は全国各地のコー
 ラスグループから
 1141人もの愛
 好家が集いました。
 50分ほどの時間で
 「やさしさにであっ
 たら」「あなたと
 出逢って」など8
 曲を披露して、阿
 弥陀如来のお徳を
 讃えます。これら
 の曲には親鸞聖人
 がお読みになられ
 たお歌が歌詞になっ
 ているものも含ま
 れ、浄土真宗本願
 寺派が独自に制作

当てはまらない方ももち
 ろんいらっしゃいます。
 旅の目的はそれぞれ少
 ずつ異なるけれど、それでい
 て出会いが楽しい、和気
 藹々とした旅になりました。

したものばかりです。そ
 の歴史は古く、全国各地
 のお寺だけでなく、龍谷
 大学をはじめとする全国
 の宗門関係学校で現在も
 歌われています。

やさしさにであつたら
 よろこびを

分けてあげよう

しあわせとおもつたら
 ほほえみを

かわしていこう

海をふく風のように
 さわやかな

おもいそえて

（『やさしさにであつたら』）

あなたと出逢って
 わたしは今ここに

生きている

その意味を

何度も心に感じて
 生かされています

（『あなたと出逢って』）

今回の本番に向けて浄
 泉寺では、2ヶ月に一度
 のペースで練習を続け
 ています。ご指導いた
 だきまして、手塚久美子さん

は茨城県にお住まいの声
 楽家で、毎回の練習に合
 わせて埼玉県の浄泉寺に
 ご指導に来てくださいま
 す。練習は厳しいながら
 も笑い声が絶えず、楽し
 く進めてくださっています。
 練習が終われば先生
 が作ってきただきだった
 お菓子をつまみつつおしゃ
 べり。本番よりも練習が
 一番思い出に残りました
 と話してくださった方も
 いるほどです。上手に歌
 うことではなく、楽しく
 歌うことを先生から学ん
 だといつては先生に大変
 失礼ですが、歌唱にどち
 らかといえれば自信のない
 方ばかりが集まったわた
 したちをご指導いただいた
 手塚先生には、この場
 をお借りして感謝を申し
 上げます。

大谷本廟を 追悼参拝

さて二つめの目的、追
 悼参拝のために大谷本廟



大谷本廟にある祖壇（親鸞聖人のお墓）の前に建つ明著堂（春秋のお彼岸には四字の花文字でかざられます）



を訪ねたのは初日でした。ユネスコの世界遺産に登録されている西本願寺で書院と能舞台、飛雲閣、虎渓の庭を拝観した後、東山五条の大谷本廟までタクシーで移動しました。西本願寺から車で10分ほどの距離にある大谷本廟は、親鸞聖人のご廟所（お墓）です。浄土真宗に縁のある方はこの「大谷さん」（大谷本廟の

関西の愛称）に分骨するのが昔から習わしでした。それがいつ頃からか、分骨ではなく全骨（お骨壺すべて）でお納めされる方が増えていきます。2万円で納骨できるといふ安さ、お墓を持たない方が増えた、または家族の形態が時代のなかで変わったなど理由はさまざま考えられますが、納骨場所のご相談をお受けしたとき、

できれば大谷本廟へも納骨いただくよう私もこれまで勧めて参りました。今回の参拝はこの一年間に納骨をされた方への追悼の意味をもった参拝でもありました。多くの参詣者でにぎわい、線香の煙の絶えることのない大谷本廟は、親鸞聖人の末娘である覚信尼によって創建された由緒を持ち、長い歴史によって作り出され

た静謐の空間は尊崇の念を万人に抱かせます。春夏秋冬冬いつ訪ねても、誰もを深々とその懐深くまで迎え入れてくださる自然な空気があります。今回もわたしたちは亡くした方の思い出を振り返りながら、静かに親鸞聖人の墓前に手を合わせ、阿弥陀如来のお浄土を偲びました。たったひとときでしたが、本当に心洗われる思いがいたしました。

帰敬式を受式

そして最後の目的だった帰敬式の受式、これはつまり法名をいただくことです。生前に法名をいただきたい

と思った場合、浄土真宗本願寺派ではこの帰敬式を受式するのが正式な方法です。この帰敬式を受けた証として、御門主様から法名が授与されるのです。受式せぬまま亡くなられた人に限り、菩提寺の住職から法名をいただきます。「釋〇〇」の二字とし、さらに居士、大姉などをつけることはありません。釋とはお釈迦さまのお弟子という意味ですの





御門主様による帰敬式

で、そういった意味からも法名は生前にいただくものです。いまでは自ら希望する名前も申請できます。この帰敬式は西本願寺では1月1日、同16日の朝の部、同8日、12月20日の終日を除く毎日2回行われています。このほかに東京の築地本願寺でも帰敬式が行われることが随時ございますので、関心のある方は住職に電話でお尋ねください。また、帰敬式を受ける経費は成人1万円、未成年5千円です。受式に条件はまったくなく、どなたでもお受けいただけます。自宅で長年にわたり寝たきりの方が受

式されたという例もありま

今回の旅では6名の方が帰敬式を受式されました。全体の受式者数が少なければ、式そのものは10分ほどで終わります。冒頭、誓いの言葉を一同が一緒に称えます。「南無帰依仏、南無帰依法、南無帰依僧」。つまり、私たちを導いてくださる仏(ほとけさま)、法(仏の教え、僧(教団)を敬い、心のよじどころとして生きることを誓います。引き続き、座っているわたしたちの背後から御門主様にお剃刀を当ていただくことから、帰敬式は「お

法に聞く



仏に手を合わせる



僧に生きる
友の輪を広げよ



かみそり」とも呼ばれます。頭頂部にチョン、チョン、チョンと三度、お剃刀を当てていただくのですが、実際に剃ることはありません。この三度という回数はお僧(ほとけさま)、仏の教え、教団)の三つを意味

かみそり」とも呼ばれます。頭頂部にチョン、チョン、チョンと三度、お剃刀を当てていただくのですが、実際に剃ることはありません。この三度という回数はお僧(ほとけさま)、仏の教え、教団)の三つを意味

します。仏法僧の三宝を敬つた敬けんな人だけが法名をいただくのではありません。ほとけさまに手を合わせ、自らの人生の指針を法に尋ね、尋ね合うことのできる友の輪のなかで支えあう人生が、法名をいただくところから始まるのだとわたしは思います。

最近よく耳にする「終活」という言葉、これは人生の終末を事前にできる限り準備することのようですが、仏教徒にとつての終活の第一歩はエンディングノートを書くことでも遺影用の写真撮影でもなく、生前にまず法名を受けることではないでしょうか。(住職)

帰敬式を終えて記念撮影!

